

「おしえて！先輩」を見てくださっている方へ

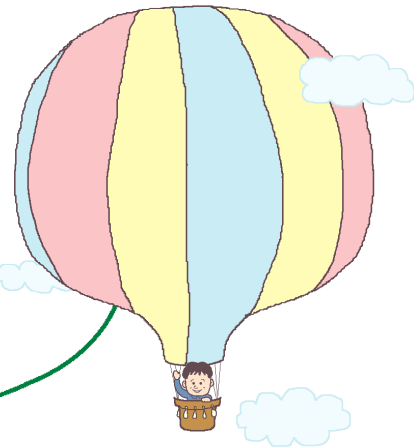


S（H元年入庁）

検事長

ひと言メモ

思考はポジティブに！



本ホームページを見ていただきありがとうございます。

私は平成元年に検事になり、この4月から37年目になります。昔と今では職場の雰囲気もずいぶん変わったようにも思いますが、検察庁に関心を持つ皆さんのために、現在の検察庁の様子を紹介します。

○仕事は厳しい、しかしやりがいはある

検察庁は、刑事手続に関与する仕事ですが、捜査では、強制的に証拠を押収したり、相手の身柄を拘束したりします。また、裁判で有罪となれば厳しい刑の執行を指揮することもあります。このように、刑事手続は、人の一生を左右しかねない重大な手続ですので、それに関与する検察庁の職員にミスは許されません。私たちは、日々、法令に基づき、適正に職務をすることを心掛けており、緊張感のある職場です。しかし、犯罪をきちんと処罰しなければ、安心して公平な社会は実現できませんし、被害者も納得できません。私たちの仕事は、犯罪に厳しく対処し、被害者に優しく寄り添うことで、安心して暮らせる社会の実現に貢献するものだと考えており、そこにやりがいを感じています。

○罪を犯した人たちにも手を差し伸べる

意外に思われるかもしれませんが、検察庁は罪を犯した人たちにも手を差し伸べています。厳しい刑に服した人たちも、将来、社会に戻ってきます。そのとき、社会がそれを拒めば、孤立を招き、再び犯罪に手を染め、次の被害者を生むかもしれません。検察庁では、将来の犯罪を防ぐためにも、罪を犯した人たちの社会復帰を応援しています。

○風通しの良い明るい職場

検察庁の仕事は重い責任を伴います。だからこそ、職員一人一人が問題を抱え込むことなく、組織全体で対応することを心掛けています。そのため、年齢、性別、役職などに関係なく、職員同士が何でも相談し、話し合える環境作りを重視しています。私自身、若い職員と話すのは好きですし、要望や意見なども喜んで聞いています。長く検察庁で勤務することで見えなくなった問題点を若手の職員が気づいて改善が図られるということも多々あります。皆さんのフレッシュな視点で検察庁を働きやすい職場としてくれることを期待しています。